

北見赤十字病院(認知症疾患医療センター)市民公開講座

開 催 報 告

「認知症の方への関わり」～医療・介護・福祉の立場から～

日時：平成 30 年 11 月 3 日(土) 14:00～15:30(開場 13:30)

会場：北見赤十字病院 多目的ホール「ミント」

北見市北 6 条 2 丁目 1 番地

今回、市民公開講座を開催致しました。当日は 173 名の市民・関係者の皆様にご来場いただき盛大に終えることができました。ご協力ありがとうございました。以下、内容を報告致します。



【講演】〈座長〉北見市保健福祉部 主幹 長尾智美 氏

1. 高齢者相談支援センター中央 中原朋美 氏

センターにおける幅広い業務から、事例に沿って認知症高齢者に関する相談業務から生活支援の実際についてお話頂きました。当事者との関わりでは、高齢者の権利擁護に配慮している。また、時には危機介入の場面もあり、多岐に渡る業務であるため、常に他機関の専門職と連携しつつ業務を展開しているとのお話でした。

2. 居宅介護支援事業所 つむぎ 代表 櫻井 正志 氏

ケアマネジャーの役割は、受容と傾聴をもって「話を聞く」。「アセスメント」本人のできることを見つける。「サービス調整」介護サービスの質と量を一緒に考える事。また、認知症の症状、介護力、生活環境は様々であり、誰もがなり得る認知症に多職種が関わり、相談先を増やす事が大切。住み慣れた場所で生活を継続できるよう環境を作っていくお手伝いをするのがケアマネジャーの役割であると話を締めくくられました。

3. 北見赤十字病院 精神保健福祉士 伊藤 智美

認知症治療は、早期ほど服薬で進行を遅らせることが可能。早期発見・正確な診断・適切な治療が重要。穏やかな進行により、本人の望むより良い生活を長く続ける事が可能となる。認知症の行動・心理症状でお困りの場合は専門科の医療機関にご相談下さいとお話しさせていただきました。

4. グループホーム 彩風 施設長 野田 隼人 氏

介護保険制度におけるグループホーム（認知症対応型共同生活介護）について、詳しくご説明いただきました。その中でもグループホーム彩風での支援事例が印象的でした。長く主婦として生活した方が認知症により日常生活全介助となりグループホームに入居されました。入居後、ご本人はグループホームでも家事の一部を担うことにより、生き生きとした表情が戻り、ご家族も元気だった頃のご本人の姿を見ることができ喜んだ。周囲の支え次第で、認知症になったご本人にもできることがたくさんある事を実感し、職員の良い学びとなったとお話頂きました。

今後も市民の皆様の声を活動に反映しつつ、講演会・研修会等で情報発信していきたいと思っております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

(事務局 伊藤)

